

第 57 回日本医学検査学会 in Sapporo

式 辞

第五十七回日本医学検査学会開会式にご出席いただき、ありがとうございます。

本日は、ご多忙の中、北海道知事高橋はるみ様、札幌市長上田文雄様、北海道医師会会長長瀬清様、また韓国、台湾代表の方々をはじめ、多数のご臨席を賜り、開催できすことに、心より御礼申し上げます。

本学会の北海道開催は十五年ぶり、通算四回目となります。テーマは北海道の「道」、サブテーマを「フロンティアスピリットをふたたび」と掲げ企画して参りましたところ、を超えたのは平成十二年以来のこと、会員の皆様にお礼申し上げます。

また、特に日常業務から離れた基礎研究に関する発表を呼びかけましたところ、会期二日目の明日、午前に、十数演題を集めたセッションを設けることができました。どうぞ活発な質疑であふれる発表となりますよう、ご協力をお願いいたします。

もうひとつの会場でありますアクセスサッポロでは展示会とポスター発表を行っています。展示会には医療関係各社から例年と変わらぬ申込みを受け、盛大に開催することができました。検査機器や試薬などに関する最新情報に触れ、コミュニケーションを図る場としても、ご利用いただきたく願っています。

また、開会式後の招待講演では旭山動物園の小菅先生から「旭山動物園の活性化」と題したご講演をお願いしています。旭山動物園はかつて閉園の危機を迎えたにも関わらず、多くの入園者から歓声があがるすばらしい動物園に躍進しています。私たちとは異なる仕事ですが、動物の楽しいお話だけでなく、本学会テーマのように、検査の専門職としての道を究め、臨床検査が直面する厳しい状況を乗り越えていくための、たくさんさんの取り組みや知見がいただけると幸いです。

そして、やや遅い時間帯となりますが、懇親会をサッポロビール園で開催します。ビール&ジンギスカンをバイキング、そして、夕張メロンやカニ、新鮮な野菜などが当たるお楽しみ抽選会も企画しております。どうぞ、時間の許す限り、北海道を大いに堪能していただきますよう、祈念致しております。

終わりにになりましたが、学会開催に当たり、関係各位からご支援・ご協力をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

平成二十年五月三十日

第五十七回日本医学検査学会会長 佐藤和昭



第 57 回医学検査学会が平成 20 年 5 月 30 日、31 日の両日札幌市において、札幌コンベンションセンターをメイン会場に開催された。担当は社団法人北海道臨床衛生検査技師会で、同会としては 4 回目の学会担当となった。北海道学会は土地柄人気のある学会であるが、例にもれず、学生 200 人を含み約 3,500 人の参加となった。5 月の札幌はライラックが咲き誇り、所謂“リラ冷え”

リラ冷えの札幌に集う 3,500 人

の季節である。今年は、いつもより気温が低く感じられたが、会場は熱気の感じられる学会となった。

演題数は 740 題をかぞえ、8 年ぶりの演題数であった。今学会の特徴は、特別企画が多いことであったが、中でも一般演題に“基礎研究”の枠を設けたことである。臨床検査といえば、とかく診療・診断の補助的な概念であるが、医学の進歩には基礎研究が欠かせないことも事実であり、多忙な日常業務にあつて積極的に研究に従事している検査技師にとっては、最高の場面となったことは間違いない。

20 題もの発表がそれを裏付ける結果となったことは今後に向けて有意義であった。

